

神奈川県だけが明治13年に作成させた社寺明細帳図 — 残存現状とその活用方法について —

神奈川県立金沢文庫 学芸員 山地 純

はじめに

神奈川県立金沢文庫では令和5年5月26日（金）から7月23日（日）まで特別展「社寺明細帳図—明治13年神奈川県下の神社・寺院の姿」を開催した。これは神奈川県だけが調製（作成）命令を出した「社寺明細帳図」いわゆる社寺明細帳の付録図の展覧会であった。

まだこの図が見つからない郡もあるが、今の神奈川県と東京都三多摩地区の明治13年頃の姿をとどめる貴重な記録図である¹。県内博物館関係者、特に学芸員の皆様にこの「社寺明細帳図」を知っていただき、今後の発見やさらなる地域研究に役立てていただきたく、ここに簡単に紹介する。

「社寺明細帳図」の詳細については特別展図録「社寺明細帳図—明治13年神奈川県下の神社・寺院の姿」（神奈川県立金沢文庫 令和5年5月26日）を参照いただきたい。

「社寺明細帳図」とは

「社寺明細帳図」とは、造語である。正式には「社寺明細帳付録図」「社寺明細帳精密図面」とでも呼ぶべきだろうか。それは明治12年6月28日内務省達乙第三十一号「神社寺院及境外遙拝所等明

細帳書式」の命令で作られた「神社明細帳」「寺院明細帳」「堂宇明細帳」「寺院仏堂宝物目録帳」といういわゆる社寺明細帳の「精密画面」だからである（図1）。図面調製（作成）は明治13年4月26日神奈川県布達乙第七十六号「社寺製図凡例」（神奈川県立公文書館所蔵 図2）で県下の郡役所・戸長役場に指示された。全国でも神奈川県だけが調製（作成）したようであり、神奈川県下だけが明治13年から16年頃の神社・寺院の姿を残すことができたのである。ただ、残念ながら現時点では橘樹郡、都筑郡、愛甲郡、津久井郡、淘綾郡、旧神奈川県下（現東京都）の西多摩郡、南多摩郡の分は発見されていない。

「社寺明細帳図」の描き方は細密に模写するために、布達名同様の「製図凡例」全9条で決めら



図1 東漸寺 久良岐郡杉田村 明治13年7月 個人蔵

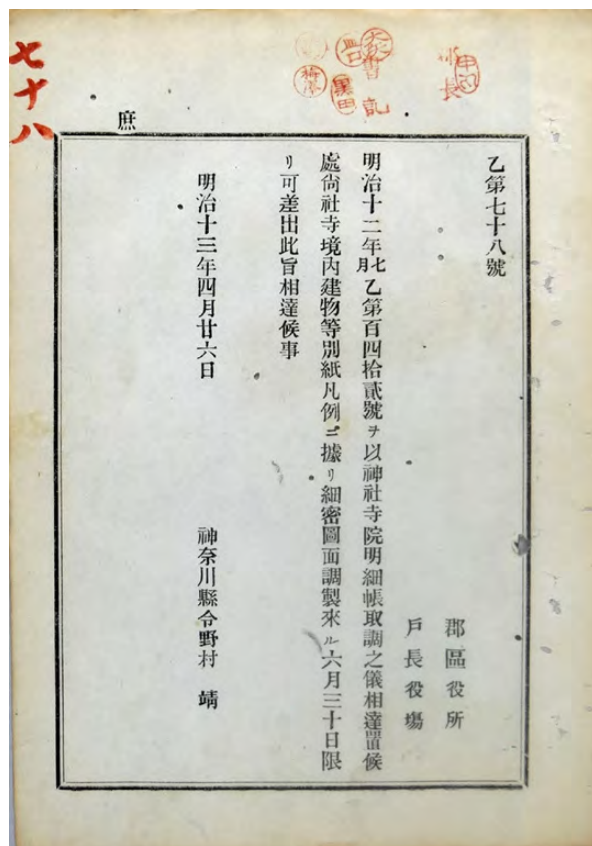


図2 神奈川県布達「社寺製図凡例」明治13年4月26日 神奈川県立公文書館所蔵

れている。県庁、郡役所、戸長宅、各社寺で保存する予定で4葉描き、地形や方位を明らかにして境内の附属物も含めて基本100分の1で描くことになっていた。彩色については記載がなく、色付けされた図も線画だけのものもある。建物を重視したために、木などは絵ではなく文字で記載されたり（図3）、記載時期とは関係なく名物の花を描いたり（図4）、長い参道を分割して描いたり（図5）、重要な国道が記載されたり、通常的神社・寺院図とは異なる。こうした約束事があるにも関わらず多彩な描かれ方をしているので、図面というよりも絵図という方が相応しい。久良岐郡では各戸長が絵師を探して描かせているので同一地域では似た絵図が描かれ、三浦郡では郡全域を同一絵師（あるいは同一工房）が描いており、見るだけ

で「三浦郡」とわかる。足柄下郡の一部では屋根伏図という特徴ある表現で描かれている。絵師名は高座郡大島村の清岩寺図に書かれた「工図 矢内高光」と、本図は残らないが下図が残る大山大工・明王大郎景元以外は不明である。社寺代表者（祠掌・住職）名、惣代名、戸長名が記されて捺印されているのも特色の一つである。そして残念ながら絵図内のどこにも社寺明細帳の図であるとの記載はない。「○○（社・寺）境内地位建物御図画」、あるいは「○○社（寺）境内図」「○○社（寺）図」と書かれているだけである。ただ、4葉作成するために何枚もの絵が苦勞して描かれ、下図などが各社寺・戸長宅に残っている例もある²。

「社寺明細帳図」の残存現状

現在把握している「社寺明細帳図」は、本図が約1720枚、下絵が約80枚である。4葉作成のために、神社・寺院の数とは異なる。もともと神奈川



図3 八幡神社 部分 大住郡西田原村
神奈川県立金沢文庫所蔵



図4 普門院 久良岐郡別所村 明治14年5月
個人蔵

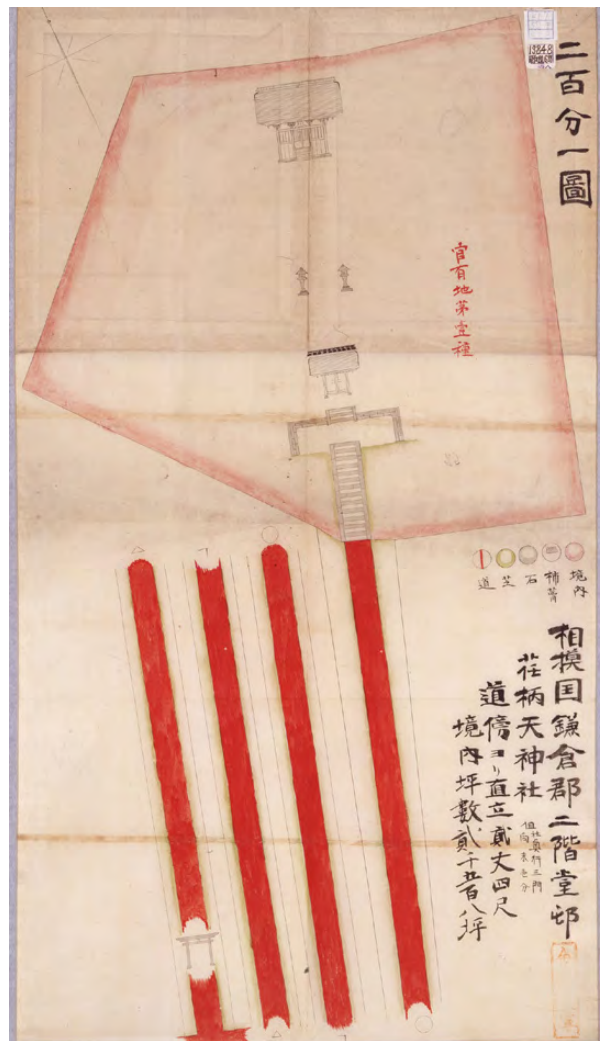


図5 荏柄天神社 鎌倉郡二階堂村
神奈川県立金沢文庫所蔵

県立金沢文庫が所蔵している神社18枚、寺院27枚の絵図から調査を始めて、貞昌院（横浜市港南区）、平塚市博物館所蔵分や横浜市歴史博物館寄託資料、東京都公文書館所蔵分などを見出していたが、平成29年8月以降ヤフーオークションにて約1600枚が売られた。平成5年10月現在、そのうち約1030枚の所蔵者が判明しているが、鎌倉高德院などの残り500枚以上は今いづこにあるのか不明である³。

社寺明細帳と「社寺明細帳図」が揃うとわかること

神奈川県下の社寺明細帳は県立公文書館や国文学研究資料館史料館などに残るが、こうした文字史料に対して、絵図である「社寺明細帳図」が加わると色々なことが判明する。

三浦郡内の神社に関しては地元に残った「三浦郡神社明細帳」（横須賀・諏訪神社所蔵）とヤフーオークションで売られた多くの神社の「社寺明細帳図」があるので、詳細な祭神、社殿規模、氏子数などと共に神社の景観がわかる。例えば、岩戸

村の村社熊野社は、明細帳（図6）では明治12年10月段階で祭神が天照皇太神、応神天皇、大己貴命であり、治承4年衣笠城落城の折に炎上、文治元年に三浦一族佐原十郎義連が再興して佐原家の守護神となり後には地元民の氏神になり、佐原神社、熊野三社大権現そして熊野社と名を変えたことや、覆殿、拝殿、本殿、幣殿の寸法、境内地494坪、氏子は12戸で、横須賀町諏訪神社祠掌が兼務していたことがわかる。一方、同社「社寺明細帳図」（図7）では、数段の石段を上がり鳥居を潜ると8段15段と上がり奥に進むと、4か所の踊り場があるがまっすぐ上に登る合計100段を超える石段の上に建物1棟が描かれている。「本社」と書かれているが、これが拝殿であり奥に覆殿や本殿があるのだと思われる。高台の本社の周りには巨木（松、椎か）が描かれ、石段横にも椎・松が描かれている。同明細帳で書かれた建物は4棟であるが、明細帳図で描かれているのは1棟のみでその他建

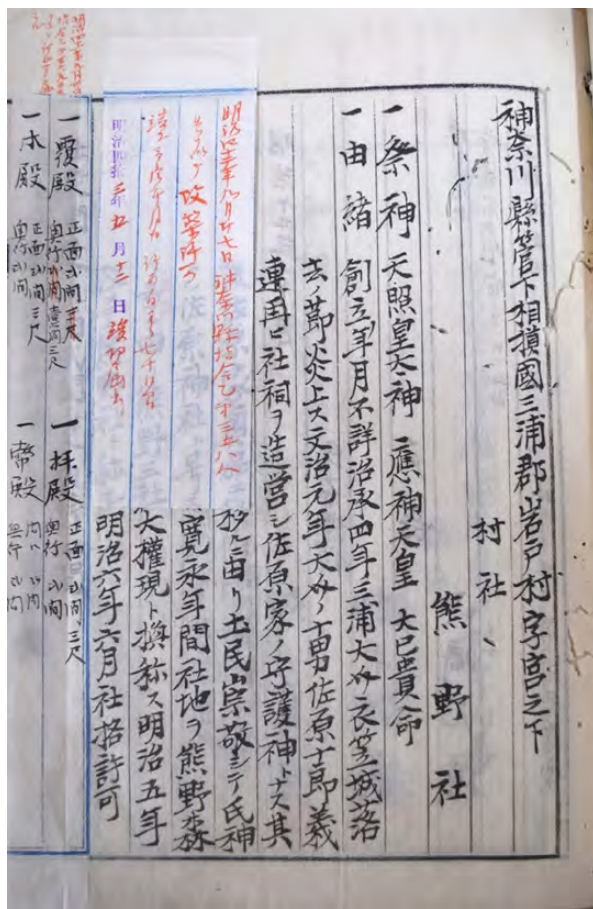


図6 「三浦郡神社明細帳」より 熊野神社 岩戸村 諏訪神社（横須賀市）所蔵



図7 熊野社 三浦郡岩戸村 個人蔵

物の様子は窺えない⁴。同明細帳の付箋により明治40年代に改築されたことも判明する。

また、久良岐郡には多彩な「社寺明細帳図」が多く残る。社寺明細帳がほとんどないが、明治26年の久良岐郡「神社明細帳」「神奈川県久良岐郡 郷村神社明細簿」「神奈川県久良岐郡 無格神社明細簿」（いずれも松本家所蔵 神奈川県立公文書館寄託）が残る。瀬戸神社所蔵の同社「明細帳」には合祀された雑社8社分の図面（図8）があるが、文字情報はない。しかし前記の「無格社神社名簿」には詳細記載（図9）があり、御祭神、由緒、社殿、建物等、境内地坪数（土地所有者名）、氏子数、県庁までの距離、祠掌名、氏子総代名、神官取締官名、宝物器物古文書目録が記載されており、小さな社殿や鳥居の規模が明らかになり、扁額や棟札などの宝物から社殿建立年月日までが明らかになる。後の神社明細帳ではあるが瀬戸神社に合祀された雑社8社の明治13年頃に描かれた姿がその規模を明らかにされて、明治時代初期の状況が生き生きと蘇る。

寺院でも同様であろう。しかも神社に関しては明治末期に大規模な合祀が全国規模で行われたが、「社寺明細帳図」により神奈川県では姿を消し

てしまった神社の姿を垣間見ることができるのである⁵。

このように、神奈川県下のみに残る「社寺明細帳図」は社寺明細帳の文字情報だけでは知りえない社寺の景観、環境などをより深く知るための資料となる。調製（作成）年代がほぼ決まっているので、貴重な地域資料となりうる。

明治時代の社寺の図

全国的には明治32年から古社寺保存法による調査があった。神奈川県下でも明治28年に「旧跡調査」「古社調査」「古寺調査」が実施されて、図面が描かれていることが判明しており、実際に図面も残っている⁶。他県では明治6年の地租改正時に描かれた絵図が残る例もある。それでも一都道府県ですべての神社・寺院を描こうとした例は見当たらない。「社寺明細帳図」の特色を知り、こうした別機会作成の図と比べて判定していただきたい。そうすれば明治13年から16年頃の神奈川県下の神社・寺院の姿を知ることができる。

さいごに

現在、「社寺明細帳図」が残っている神社・寺院の名称公開の準備をしている。しかし、まだ神奈川県下のどこかで橘樹郡、愛甲郡、津久井郡、都

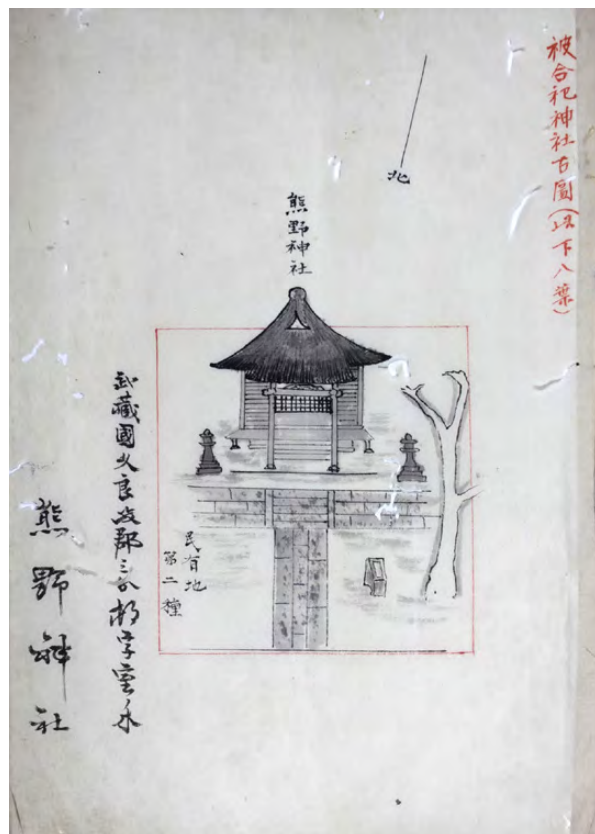


図8 熊野社 久良岐郡三分村室の木 瀬戸神社所蔵

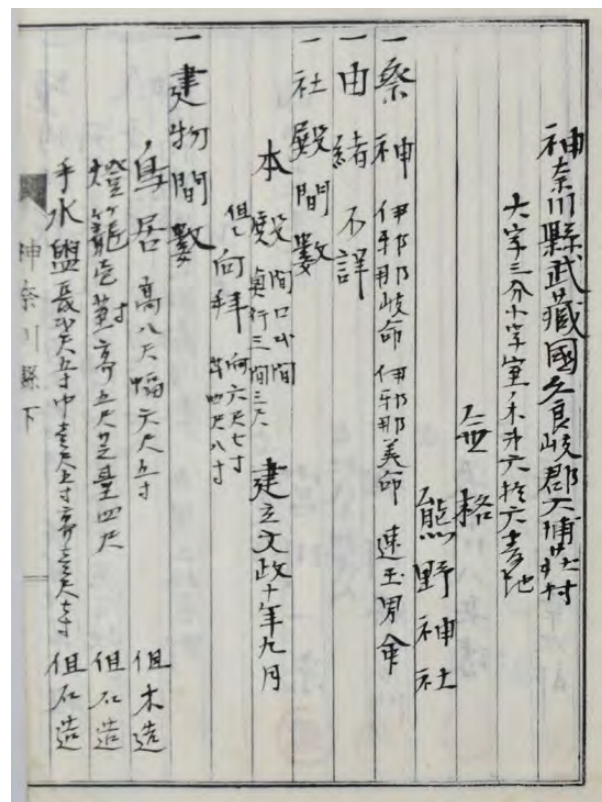


図9 「神奈川県久良岐郡 無格社神社明細簿」（明治26年9月）より 熊野社 久良岐郡三分村室の木 松本家所蔵（神奈川県立公文書館寄託）

筑郡、淘綾郡、(旧神奈川県下西多摩郡、南多摩郡)を含め多くの「社寺明細帳図」が保管されているかもしれない。神社・寺院だけでなく戸長宅にも下図が残っている可能性が高く、大工であった旧家にも下図があるかもしれない。

今後、神奈川県下の学芸員の皆様が各地域で新たに「社寺明細帳図」を発見していただくことを祈念して、簡単な紹介を終えたい。

註

- 1 明治26年4月1日に三多摩地区は東京府(現在の東京都)に移管された。
- 2 久良岐郡町屋村の名主・戸長であった松本源左衛門家には下図と「製図凡例」写などが多く残る。
- 3 約1030枚の所蔵者は、鎌倉市中央図書館、横浜市歴史博物館や金沢文庫(寄贈予定)、その他は神社、寺院、個人などである。(この時のご購入者の方、山地まで枚数だけでもお知らせください。)
- 4 透視図のように覆殿内の本殿が描かれる例としては、神明社(北多摩郡中藤村・横田村 明治13年8月)がある。図録「社寺明細帳図」76頁参照
- 5 廃絶した称名寺子院一の室と海岸寺、寺前八幡社に合祀されたかつて境内にあった鷲神社や近くの神明社、王子社の「社寺明細帳図」が残っている。図録「社寺明細帳図」29・30

頁

- 6 大塚家文書(神奈川県公文書館所蔵 図録「社寺明細帳図」12頁)や葉山町所蔵「葉山村社寺明細帳」(葉山町所蔵)など

参考文献

- 神奈川県立金沢文庫 企画展図録「描かれた寺社—中世の指図と明治の社寺明細帳図—」平成20年12月11日
神奈川県立金沢文庫 特別展図録「社寺明細帳図 —明治13年神奈川県下の神社・寺院の姿— 令和5年5月26日
黒澤彰哉「明治前期に作成された神奈川県下の社寺明細帳図」『鴨台史学』第17号 令和3年8月 大正大学史學會
平塚市博物館 春季特別展図録「四之宮前鳥神社～その神輿と地域の振興～」平成30年3月17日
山地純「【資料紹介】金沢の社寺明細帳図 洲崎町松本ナミ家旧蔵社寺明細帳図下書きから」『金沢文庫研究』第328号 平成24年3月22日 神奈川県立金沢文庫
山地純「鎌倉ゆかりの「社寺明細帳図」～合祀された神社～」『鎌倉』第113号 平成24年7月31日 鎌倉文化研究会
山地純「【資料紹介】神奈川での社寺明細帳図調製「社寺製図凡例」～神奈川県立公文書館所蔵の神奈川県布達～」『金沢文庫研究』第329号 平成24年10月30日 神奈川県立金沢文庫
山地純「【資料紹介】新たに見つかった社寺明細帳図 ～横浜市栄区、金沢区と北多摩郡から～」『金沢文庫研究』第332号 平成26年3月13日 神奈川県立金沢文庫
山地純・武田周一郎「【研究ノート】新出した大量の社寺明細帳図とその所在」『金沢文庫研究』第341号 平成30年10月31日 神奈川県立金沢文庫